TOKACHI TOYAMA FARM

土の香り

「食卓に笑顔の種を届けたい。」

No.28　2014年

ホームページ
www.toyama-nojo.net

お電話、FAXでのご注文・お問合せ
電話＆FAX：0155-60-2110

編集発行:とやま農場　〒080-2106　北海道帯広市美栄町西6線128番地　携帯　090-5072-7922

　みなさま、お変わりございませんか？
いつも、当農場の産物をご愛食頂き誠にありがとうございます。
　『土づくりよもやま話』就農以来願っていた堆肥舎が無事に完成し、６月より稼働を始めました。牛ふん、馬糞、地元のマッシュルーム工場の廃培地、喫茶店から回収した珈琲粕など、地域の未利用資源を再活用した完熟堆肥が散布出来るようになりました。土の健康診断である「土壌分析」に加えて、従来比2.5～３倍の**有機物**を化学肥料の代わりに投入することが可能になりました。地域内での有機物循環を進める事によって、農業が自然に与える環境負担を軽減できるように努めていきたいと思います。
　そういった農場の取り組みの成果もあり、一昨年よりご縁を頂きまして徳島県で創業１４５年を迎える老舗のお菓子製造業者様へ農場産小豆、白小豆、カボチャの供給も始まっています。そこですごく感じるのが「供給者責任」です。農産物の特性上、どうしてもその年の気候などの影響を受けるので、毎年同じものが作れる訳ではありません。ですが、お客さまの農産物に対する反応が直接跳ね返ってくるのが相対取引です。良い品質で収穫できるように気を遣い、必要量を供給するのは「やりがい」と同時に「供給者責任」を感じます。従来よりご愛食頂いている個人販売のお客様に対しても大切に育てた農産物をよい品質でお届けできるよう、今後とも努力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

２０１４／１０
四代目代表 外山隆祥(ﾀｶﾖｼ)

堆肥舎で発酵する堆肥

完熟堆肥の散布

緑肥コーンの還元

あさひやの「和ジュレ」

かふぇ坩堝の「あずきぜんざい」

とやま農場の農産物・農産加工品をお取り扱い頂いています。

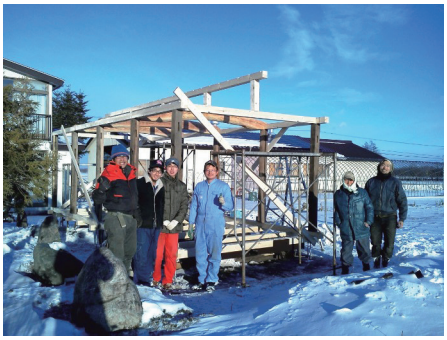
お陰様で産地直送に加えて、地元十勝や大阪など「とやま農場」の農産物・加工品をお取り扱い頂けるお店が増えています。お近くにお寄りの際には、是非ご利用頂ければ幸いです。

お取り扱い販売店

☆五感「冷やしあずき」（大阪府）
☆東京ドームホテル（東京）：10/1～11/30　北海道フェア　2014
　３Fスーパーダイニング「リラッサ」
　統括シェフ　野上秀利氏が７月に当農場を訪問されました。昨年に引続き小麦シリアルに加え菜種油＆菜種蜂蜜をご利用頂いています。
☆九州屋（札幌市 丸井今井内）
☆天使のパンや　ブランジェアンジュ（網走郡大空町）
　杉原商店（札幌市）
　帯広市内　☆手作りケーキ工房　あさひや「和ジュレ」
　藤丸百貨店・帯広競馬場内　とかちむら産直市場・　帯広物産協会
　中札内道の駅カントリープラザ（中札内村）

お召し上がりになれる飲食店

☆かふぇ坩堝「あずきぜんざい」（帯広市）
　北の屋台　煙陣「ミックスナッツ（黒豆入り）」（帯広市）
※　☆マークは新規店舗です。



友人も参加しての棟上げ式

カフェをイメージした明るい室内

ゲストハウス"ルート55"が活躍しています

「アメリカ研修時代の原風景」＆「気軽に泊まってもらえる場」として、故勝則（父）が中古のトレーラーハウスを入手してから１１年。老朽化した上部を解体し、そのシャーシ（台座）を活かして、晶浩(四男)が中心となり一冬掛けて製作したゲストハウスが４月に完成しました。

名前の「Route55」はアメリカの国道Route６６と農場の前を通る「道道５５号」をかけたネーミングで、多くの方が交差する「場所」になって欲しいと願い名付けました。

梁や柱＆デッキには、かつて徳男（祖父）が地域の方々と共に手作りした馬小屋の木材を再利用し、 他の木材も道産材を活用しています。設置場所にもこだわり、大きな窓からは農場の畑と日高の山並みが一望でき、家や電柱などの人工構築物は視界に入ってきません。

内装は漆喰を塗り、バーカウンター、音響とプロジェクタースクリーン、ソファ、ハンモックを設置して、自由に過ごせる様工夫を凝らしました。また、薪ストーブにソーラー発電とエコな暮らしも体験できます。

ゆったりとした空間を演出し、農村ファームステイで滞在される修学旅行生を始め、友人や知人、地元大学生の合宿など、多くの皆様が宿泊されお陰様でご好評を頂いています。

お近くにお越しの際には、是非ご利用下さい。

ゲストハウス"Route55"

今年は９組の受入となりました。

NPO法人"食の絆を育む会"による修学旅行のプログラムの一環である農村ファームステイ受入は、今春４組の予定から９組に増え、総勢３４名の皆さんが家族の一員として滞在しました。作物それぞれのステージ（ビートや小豆の除草作業・じゃが芋の収穫や種芋の選別作業等）に合わせた農作業を家族と　一緒に体験して頂きました。慣れない環境に加え、初めての農作業にもかかわらず、一生懸命楽しんで？　取り組む生徒さん達との関わりに作り手として元気を頂きました。わずかの滞在ですが、ゲストブックからは「農業の大変さがわかりました」「頑張った後の食事はいつもの何倍も美味しかった」等々嬉しいメッセージを頂いています。今年、農場に訪れて頂いた皆さまお疲れ様でした。そして本当にありがとうございました。

6/21～22:大阪府立狭山高等学校
6/25～26:奈良女子大学付属中等教育学校
7/15～16:埼玉県立川口北高等学校
9/28～29:大阪府立刀根山高等学校
10/2～3:大阪教育大学付属高等学校 池田校舎
10/6～7:大阪府立北千里高等学校
10/16～17:大阪府立市岡高等学校
１０／２１～２３：大阪府立高石高等学校
10/28～29:大阪府立堺工科高等学校

大阪府立北千里高等学校

大阪府立市岡高等学校

北海道
十勝とやま農場
SINCE 1917

日々の農作業や
農村風景を発信
とやま農場FBページ
も「いいね！」
をお願いします。

編集後記

「そんな何粒の豆なんか、いちいち拾わなくても～」秋の取り入れに追われる中、夫の丁寧さに「？」だったかつての自分。今では亡き夫同様に一粒一粒を拾っている自分がいます。土を作り、大地を耕し、種を蒔き、雑草や病気から作物を守り・・・やがて恵みに預からせて頂く私たちの仕事。

大地よ、作物よ、お天道様よ 、そしてお召し上がり下さる皆さまetc.
本当にありがとう。そこには、慈しみの想いが込められていたのですね。何トンもの農産物を生産しても全ては一粒一粒の積み重ねであり、命であり、恵みであることを世代を超えて感じ合えたらと思う稔りの秋です。感謝。

聖子